

- 当院でのC型肝炎感染者の状況 -

国家公務員共済組合連合会新別府病院

肝臓内科 香川浩一

肝炎治療コーディネーター 藤本絢子、工藤徳昭、稲田志信

はじめに

C型慢性肝炎に対する経口抗ウイルス剤は、100%に近い治癒率と副作用がほとんどないことから、その有効性は極めて高い。

将来的にC型肝炎の絶滅が期待されている状況であるが、そのためには、患者さんを掘り起こして治療への受診を増やすことが重要な段階となっている。

今回、掘り起こしを目的として、当院においてHCV抗体検査を施行した症例を調査した。

対象と検討項目

2014年1月から2015年12月までに、当院でHCV抗体検査を施行した11252例で、第二世代のアボットおよび第三世代のオーソ定量検査で、陽性と陰性を判定した。

11252検体 (9086症例)



2年間に、複数回測定した症例 (1833) の2回目以降の検体 (2166) を除く。

9086検体 (9086症例)



- ① 全症例の陽性率
- ② 科別の陽性率



- ③ 複数回測定した1833症例の検討

結果① 全症例のHCV抗体陽性率 (n = 9086)

	陽性者	陰性者
割合 (人数)	4.2% (n=385)	95.8% (n=8701)
平均年齢	74.5歳* (32-97歳)	64.7歳 (8-109歳)
女性の割合	57.3%	48.1%

* : P=0.0075 vs 陰性者

結果② 科別の陽性率の比較 (n = 9086)

科	検査人数	陽性率(人数)	陽性者の平均年齢
救急科	2899	5.2 % (150)	76.0
検診・ドック	2005	0.4 % (9)	53.6
消化器内科	1034	9.1 % (94)	72.4
整形外科	658	3.0 % (20)	73.0
循環器内科	602	4.3 % (26)	76.9
眼科	365	6.8 % (25)	77.2
外科	292	2.7 % (8)	74.6

結果③ 2年間の検査回数検討 (n=9086)

	1回	2回	3回	4回	5回以上
人数 (%)	7253 (85.7)	1570 (11.6)	212 (2.3)	39 (0.4)	12 (0.1)
平均検査間隔* (日)		281	402	440	437
陰性転化例		3	0	0	0
陽性転化例		1	2	0	0

*初回と最終検査の間隔

陰性転化症例

① 86歳女性 + ⇒ - (2週後)

② 82歳女性 + ⇒ - (5か月後)

弱陽性かつHCVRNA陰性のため、疑陽性or感染の既往と判断した。

③ 79歳男性 + ⇒ - (3週後)

HCVRNA陰性のため、疑陽性or感染の既往と判断した。

陽性転化症例

① 40歳女性 $- \Rightarrow +$ (1年2か月後)

新規感染として他院治療中。

② 79歳女性 $- \Rightarrow +$ (1か月後) $\Rightarrow +$ (4か月後)

弱陽性かつHCVRNA陰性のため、疑陽性or感染の既往と判断した。

③ 55歳女性 $- \Rightarrow +$ (11か月後)

弱陽性かつHCVRNA陰性で、10年前にもHCV抗体陽性といわれた。感染の既往が疑われた。

考察

① 大阪府立大学の報告（肝臓 57巻1号 7-16 2016）

- 1年間のHCV抗体検査12374件の陽性率は 5.7 %
- 測定数の多い科は、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、肝胆膵内科、泌尿器科、循環器内科、消化器外科

- 陽性者の電子カルテのメモ欄に、「肝胆膵内科への院内紹介をご考慮下さい」と記載するようにした。
- 麻酔科術前診察時に、陽性者は肝胆膵内科の紹介を促す。



紹介が、226例/年から348例/年に増えた。

② 岡山大学の報告 (肝臓 56巻4号 137-143 2015)

- 1年間のHCV抗体検査11086件の陽性率は2.3%
- 測定数の多い科は、眼科、整形外科、泌尿器科、循環器内科、皮膚科、形成外科、リウマチ科、神経内科、産婦人科

- 陽性者の電子カルテに受診を促すアイコンが自動表示。検査結果とその説明、受診を進める内容を含む検査説明書をプリントするとアイコンが消えるシステムで対応した。
- 報告がなされなかった受検者には、主治医に了解を得た後に、検査報告書を郵送した。



紹介率が6割アップした。

③ 当院の検討のまとめと現在の対応

- 2年間のHCV抗体検査11252件の陽性率は4.2%
- 測定数の多い科は、**救急科**、検診・ドック、消化器内科、整形外科、循環器内科、眼科、外科

- 陽性者の電子カルテに抗体陽性を示すアイコンが自動表示。検査結果の説明と受診を進める文書を含む検査説明書を、主治医がプリントして説明。
- 肝炎シールによる、陰性者も含めた、肝炎検査の啓蒙を開始した。

C型肝炎スクリーニング検査が陽性であった方へ

当院で施行した血液検査で、血液中のC型肝炎ウイルス(HCV)抗体が陽性でした。C型肝炎に罹患している可能性が高いので、肝臓専門外来で詳しい検査を受けて下さい。血液中のHCV抗体が陽性の場合、次の3つが考えられます。

① 現在C型肝炎に罹患している場合	⇒ 専門医による加療が必要です。
② 過去にC型肝炎に罹患したことがあるが、現在は治癒している場合	⇒ 1年に1回程度の経過観察が必要です。
③ 血液中の他の抗体などが誤って反応してしまった偽陽性の場合 (抗体が低力価のことが多い)	⇒ C型肝炎と関係ないので問題ありません。

上記①②の診断は、血液検査(HCVRNA検査)で簡単にできます。

①②のいずれの場合も、肝臓癌が発生する可能性がありますので、**早めに専門外来を受診するようにしましょう。**

肝炎対策基本法

第二章 肝炎対策基本指針

第3 肝炎検査の実施体制及び検査能力の向上に関する事項 (2)-カ

平成二十三年五月十六日制定

国及び地方公共団体は、医療機関に対し、手術前等に行われる肝炎ウイルス検査の結果について、受検者に適切に説明を行うよう要請する。また、国は、医療機関において手術前等に行われる肝炎ウイルス検査の結果の説明状況等について、実態把握のための調査研究を行う。



平成二十八年六月三十日改正

国及び地方公共団体は、肝炎情報センター及び拠点病院の協力を得ながら、医療機関に対し、手術前等に行われる肝炎ウイルス検査の結果について、例えば電子カルテによるシステムを利用する等により、受検者に適切に説明を行うよう依頼する。医療機関は、肝炎ウイルス検査の結果について確実に説明を行い、受診につなげるよう取り組む。

- 最近3か月間のHCV抗体陽性者の検討 -

2016年10月1日から12月31日までの陽性者55名
全員のカルテチェックを行った。

男性23名、女性32名、平均年齢75.7才（15-100才）

肝不全 2名、寝たきり 5名、高度認知症 7名、精神科通院 4名、
既に死亡 3名

1: 陽性者への連絡について

HCV抗体陽性 55名

カルテの確認で、C型肝炎であることを知っているのが明らかであった21名を除く。

残り34名

HCV RNAが陰性であることが判明している16名を除く。

残った18名を「連絡すべき人」とした。

連絡すべき人18名の詳細 (測定日順)

	年齢 性別	RNA未検 or陽性	身体状態	電話 連絡	状況	RNA	治療
①	86 F	未検	脳梗塞	済	受診済	陰性	未
②	87 F	未検	脳梗塞	済	他院		未
③	49 F	未検	骨折、精神科	済	リハビリ		未
④	91 F	未検	寝たきり、肺塞栓	済	施設		未
⑤	88 F	未検	寝たきり	済	死亡		未
⑥	88 F	未検	認知症、精神科	済	死亡		未
⑦	82 F	未検	認知症、低血糖	済	受診予定		未
⑧	82 F	未検	認知症、精神科	済			未
⑨	81 F	未検	特記なし	済	受診済	lb 5.4	未
⑩	82 F	lb 5.4	特記なし	済			未
⑪	64 F	未検	精神科	済	受診済	lb 5.9	未
⑫	35 M	未検	ドック	済			未
⑬	54 M	未検	DM	行わず	予約あり		未
⑭	89 M	lb 6.6	脳出血	済			未
⑮	66 F	lb 5.4	胆嚢癌末期	行わず			未
⑯	78 F	未検	特記なし	済	3月受診		未
⑰	100 F	未検	特記なし	済	他院		未
⑱	68 F	未検	整形疾患	済	リハビリ		未

2：抗体陽性者55名のHCCについて

- HCCの加療中 3名
- HCCなし 34名（半年以内の画像検査あり）
- HCC不明 18名
（RNA陰性2名、既知5名、連絡済11名）

結語

- ① 当院でのHCV抗体の陽性率は4.2%であり、大阪市立大学の5.7%、岡山大学の2.3%とほぼ同様であった。
- ② 当院でのHCV抗体の陽性者の平均年齢は74.5才と高齢であり、平均年齢が高い科ほど陽性率が高かった。
- ③ 当院では、抗体陽性者全員に連絡するのではなく、カルテチェックを行って、連絡すべき人を選択して電話連絡を行った。
- ④ 3か月で16名の連絡を行い、現在までの受診者は3名であった。3名中2名は新規掘り起こしのC型肝炎であり、治療の説明とHCCのスクリーニングを開始した。